

年次報告書

AKATSUKI ANNUAL REPORT 2016


2016

NPO法人 アカツキ



持ち寄って働く、寄り合って暮らす。
それぞれの『私たち』に拓かれた社会へ。

【住所】〒810-0022 福岡市中央区薬院2丁目16番14-502号

【Email】 info@aka-tsuki.org 【Web】 <http://aka-tsuki.org/>  <https://www.facebook.com/npo.akatsuki>

♥ SPECIAL THANKS

本アニュアルレポートの制作においては、フェロー（正会員）の原口尚子さん・富永沙和さんにインタビューを、
またサポーター会員の中里明日香さんに紙面デザインをお願い致しました。ご協力に感謝申し上げます。





話し手:アカツキ理事・職員
雪松 直子

話し手:アカツキ代表理事・職員
永田 賢介



聞き手:アカツキフェロー
富永 沙和 (とみなが さわ)

生協職員から福祉系ITベンチャーへ転身。大学時代インターン、現在アカツキフェロー(正会員)。大学院で調停・合意形成を専攻し、修士論文でアカツキのNPO支援について執筆中。

INTERVIEW

わかりにくいアカツキの展望を正会員が事務局職員にインタビューしてみました!企画

可哀想でなければ助けてもらえない? 誰とどう支え合って暮らすのか

原口(尚):昨年度のアンニュアルレポートでは、「関係性の貧困」という言葉が使われていました。最近ニュースでも、「こども食堂」など、地域のつながりを活用した取り組みを聞くようになりましたね。これはアカツキのビジョン『持ち寄りて働く、寄り合って暮らす。それぞれの「私たち」に拓かれた社会へ』を語る上では欠かせない言葉かなと思います。

永田:言われてみれば、増えましたね。ただそれは、ひと昔前への「ゆりもどし」のような気もしています。昔は、「血縁や地縁」で解決していた困りごとが、近代化で民間のサービスが充実していくと、「お金」で解決できるようになってきました。現在、若い世代の収入は低下しているけれど、かつてそれを受け止めていたセーフティネット、つまり無償で支え合う関係性は、核家族化や地域の希薄化により既に失われています。

雪松:私は、自分の双子の子どもが小さい頃、「育児が大変です」の一言が言えませんでした。保健所の家庭訪問はあつ

ていましたが、家に来る“お客さん”に「大丈夫?」と聞かれたら、つい「はい、大丈夫です」と答えちゃうし、周りのみんなが頑張っているなかで、自分だけ苦勞のアピールをするのはワガママのような気がしていたんですね。

永田:公的サービスを受けるためには、自分がどれだけ困っているのかを声高に説明をしないとイケない。でも、それってある意味自分を「可哀想な人」にしてしまう、自尊心を傷つけることでもあるから、ハードルが高いですよね。それに、支援する側も、「どう大変か」を聞いて寄り添う技術が充分ではないとか、1人の担当者が忙しすぎる、受け止める余裕がないなど、実は支援側にもサポートが必要な現状すらあるように思います。

人は求められることを求める 「あなたの力が必要です」という提案

雪松:時々どうしようもなく大変な時は、双子を抱えて近所で一人暮らしをしているおじいちゃんの家へ駆け込んでいました。当初は迷惑だろうと申し訳なく思っていたんですけど、おじいちゃんはいつも、「来てくれてありがとう」と言ってくれたんです。

永田:おじいちゃんも、雪松さんを支えることが自分の喜びでもあったんでしょうね。ボランティアをしたくてセンターの窓口に行く人は、「私が誰かを助けますよ」という言葉の裏に、「誰かに必要とされたい」という気持ちを持って

ることが少なくありません。

富永:困っている人と助けたい人がお互いを認知するのはとても難しいことですよね。人が集まればいいのでしょうか。趣味のサークルでも相互扶助が起きそうな気もしますがなぜアカツキは敢えてNPO支援なのでしょう。

永田:そうですね。まず、そもそもアカツキの受益者は一般市民なんですね。ミッションは「参加と協力の仕組みを育てる」であり、社会課題の解決とかNPOの強化とは言ってない。そして、人には趣味のように「自分が楽しい」だけでは行動する動機にならない人、誰かに必要とされて初めて、自分の存在を認めることができる人も一定数いると思うんです。

雪松:誰かの役に立つことで救われるという人もいます。寄付やボランティアという手段を通じて、「あなたの力が必要です」という提案をNPOがすることで、地域や会社とは違う形で、社会の支え合いを提案できるのではないのでしょうか。

一緒につまずく、自分を導く。 NPOは合意形成の現場混乱の最先端

永田:まだ働き始めて少ししか経っていませんが、この仕事における雪松さんの役割ってなんだと思いますか。

雪松:アカツキは伴走支援という言葉を使っていますが、まずはしっかり支援先を見ながら、考えて悩んで、時には一緒につまずいたり、穴にはまったりすることも大事なあと考えています。



原口(尚):痛みを分かち合う役割。心強いですよね。

永田:明確なソリューションや、それを提供するコーチを望む社会の声は確かにあります。でも僕は、必要な環境を整えるだけで、人や組織は自然に成るべき方向に向かうのではないかと信じています。人には自分で自分を導く力があるので、僕らの伴走支援はあくまでも足元を照らす小さな希望、燈(あかり)のようなものかもしれません。

雪松:ファンドレイジングや事務局実務などの支援がありますが、アカツキが一番大事にしている組織の基盤には「コミュニケーション」と「合意形成」があるような気がします。

永田:これまでは、家庭や地域、会社において、意思決定を行なう人は父親・村長・社長など事前に規定されていることが多かった。でも、これからの社会では、お金や肩書きではカタがつかない問題が多くなる。価値観や立場が大きく異なる人々が対等に意見交換し、落としどころを見つけることが求められます。今NPOが向き合っている合意形成の「技術」「マインドセット」「成功体験」は、これから社会の色々な場所で必要になると思います。



聞き手:アカツキフェロー
原口 尚子 (はらぐち なおこ)

地域の公益シンクタンク研究員、担当は少子高齢化と地域福祉など。韓国の「希望製作所」視察への翻訳協力を経て、アカツキフェロー(正会員)。事務局業務効率化のアドバイスも。



代表理事/
特例認定NPO法人アカツキ 職員
永田 賢介

公私ともに支えてくださり、いつもありがとうございます!今年度はマンスリーレポートの内容に、工夫を凝らしていくつもりです。



理事/認定NPO法人AAR Japan
[難民を助ける会]職員
松島 拓

ミャンマーからチェズーティンバナー(ありがとうございます) 離れているからこそできる役割を見つけ、支援者の皆さまとアカツキを創っていききたいと思います。



理事/
特例認定NPO法人アカツキ 職員
雪松 直子

皆さま、いつもご支援頂きありがとうございます。アカツキとは何かを常に考え、理事兼職員として芯を持って取り組んでいます。



理事/
株式会社ビッグトゥリー 代表取締役
高柳 希

いつもアカツキをサポート、応援して頂きありがとうございます!今年は皆さんと会える日を増やしていけたらと思っています。



理事/
NPO法人グリーンシティ福岡 理事・職員
志賀 壮史

皆さま、いつもご支援・ご協力ありがとうございます。理事としての1年目が過ぎました。より口や手を出す2年目にしたいと思っています。



監事/
福岡大学商学部 非常勤講師
兵土 美和子

アカツキへの温かいご支援をありがとうございます。監事就任から1年。ひたすら観察の一年目から、より幅広く見る二年目だと思います。

1周外側から見たアカツキ

2016年度は、理事監事職員の退任や加入で人の動きが大きくありました。人が変われば、理事会の雰囲気や議論の仕方も変わりますが、前あったものがなくなった訳ではなくステージが変わった、そんな感じでしょうか。次のステージは、いわば関わりの拡大の始まり。旧役員とも違う形での関係性が始まります。そんなこれからのアカツキにもどうぞご期待ください。

▶退任役員よりご挨拶

今後は正会員として活動をサポートしながら、5月に設立した株式会社YOUIを通じて、社会課題解決に取り組みます。どうぞよろしくお願いたします。(原口)

公私ともにお世話になりました。あずみん時代には見えなかった・知らなかったNPOのことをアカツキでいろいろ経験させていただくことができました。(鋪田)

多様な皆様に関わって頂けるからこそ「持ち寄り、寄り合う」を日々実感し、暁の中に体現し続けることができた事に、心より感謝申し上げます。(佐々木)



原口 ゆい 鋪田 みどり 佐々木 悠史

組織としての取り組み

2016 AKATSUKI

アカツキ夏の役員合宿2016 in宗像進行表

▶13日(散らかす! = 拡散の日)

08:30 集合・移動 (担当)
10:00 バランスボールエクササイズ……………雪松
10:30 チェックイン……………高柳
10:45 休憩
11:15 4年間の振り返り……………永田+志賀
12:00 食材買い出しと移動
13:00 昼食
14:30 ビジョン・ミッションの再確認……………永田
15:30 休憩
16:00 10年後の自分・アカツキを絵で考える…原口
17:30 夕食準備
19:00 夕食
20:00 社会的成果とKPIの検討……………高柳+永田
22:00 入浴/飲み会
00:00 就寝

▶14日(畳む! = 統合の日)

07:00 起床
07:30 体操/合唱(里山賛歌)……………志賀
08:00 朝食準備
08:30 朝食
09:30 事業の見直し検討……………永田+佐々木
11:30 移動
12:30 昼食
14:30 事務職員人材のイメージ可視化と共有…永田+高柳
15:30 チェックアウト
17:00 解散



▶夏合宿の振り返り

夏の合宿では、右の3点を主な目的に据え、身体と頭の両方をバランスよく動かすことを心がけて実施しました。場所は雪松が縁ある「メイトム宗像」と「グローバルアリーナ」にしました。どちらも爽やかな自然と快適な設備で、議論に集中することができました。前提や意識の共有にかかる時間と、具体的な議論の成果物のバランスがいつも難しいと感じています。

- 旧理事と新理事の共有する前提を揃え、対話と議論の土台を作る
- アカツキのビジョン/ミッションと個々人の関わり方を明らかにする
- 中期計画素案とKPIの策定

▶アカツキ職員能力開発チェックリスト

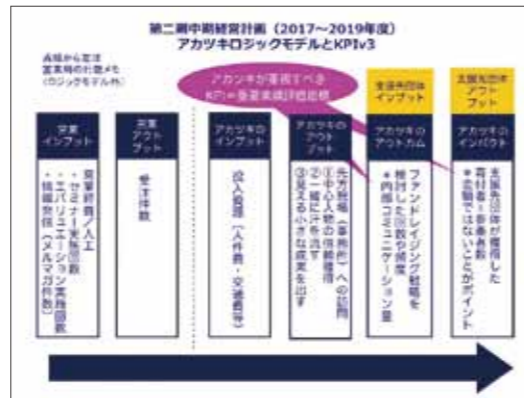
項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
①場づくり力									
②企画・表現力									
③調整・交渉力									
④定型事務処理力									
⑤課題特定力									
⑥情報発信力									
⑦ファンドレイジング力									
⑧市民社会のビジョンを描く力									
⑨ビジネス基礎力									

アカツキの職員として求められる能力を、①場づくり力、②企画・表現力、③調整・交渉力、④定型事務処理力、⑤課題特定力、⑥情報発信力、⑦ファンドレイジング力、⑧市民社会のビジョンを描く力、⑨ビジネス基礎力の9項目をそれぞれレベル1~3に分け、さらに各項目で3~6程に分解し、参考図書も設定しています。今後4半期に1度の相互面談と共に活用し、適正の見極めやマネジメントの強化を推進していきます。

成果を自分たちで定義する必要性 課題解決ではなく、参加と協力の社会を目指す

「アカツキの事業における社会的成果とは何か」を具体的に可視化し、内部で共有するため、2期目の中期経営計画と併せて理事会で議論を重ね、簡易的なロジックモデル(※1)を仮策定しました。特徴はファンドレイジングコンサルティングの成果を、支援先の「資金調達額」ではなく「支援者数」においた点、KPI(※2)が、支援先団体内部のコミュニケーション頻度とした点であり、アカツキの理念を事業の現場にまで反映させた仕様になっています。

2016年度における支援先事務所訪問数(アウトプット)は54回、支援先団体の寄付者数(インパクト)は522名でした。なお、支援先団体の内部コミュニケーション回数(アウトカム)は計測できていませんが、2017年度から計測します。今後、必要に応じてロジックモデル自体も修正・改善していきます。



(※1)ロジックモデル…実施する施策が目標達成に至るまでの論理的な因果関係を明らかにした図表。政策評価や社会的インパクト評価に使用される。
(※2)KPI…Key Performance Indicatorの略称で、日本語では「重要業績評価指標」と訳される。目標達成に向けて進捗管理を行うための補助指標。

PICK UP NPO法人事務体制整備ノート

福岡県職員・弁護士・税理士・社労士・NPO経営者モニター3名との協働で制作した「NPO法人事務体制整備ノート」は、法務・労務・会計・税務等、法人運営の実務に必要な、正しい情報と現場の知見を、チェックリストやカレンダーと共に盛り込みました。無料ダウンロードのPDF版が公開後約1ヶ月で、Facebookでは26,000以上のリーチ・100以上のシェア・1,000以上のいいねを獲得し、全国で活用されています。



PICK UP クラウドファンディング支援

2015年度から続く福岡県委託「クラウドファンディング支援事業」においては、2回の研修でアカツキオリジナル制作のブックレットと企画設計ワークシートを活用しました。ターゲットの選定やコスト計測、広報文まで、伴走支援による企画の赤入れなどを経て、挑戦した6団体すべてが目標額を達成しました。合計300人の支援者がキャンペーンに参加し、総額1,715,000円の資金が集まりました。



コンサルティング事業



事業概要 経営からイベントの現場まで
日常に寄り添う支援

認定NPO法人ソルト・パヤタスさんとは、通算で約3年以上お付き合いをさせてもらっており、2016年度は特に資金計画の策定と進捗確認、広報戦略の見直し、イベントでのプレゼン設計支援、認定NPOとしての事務体制モニタリング等を行いました。特に東京から転職してきた新職員の井上さんとは、初期にNPO職員としてのオリエンや、福岡でのNPOコミュニティへの紹介、アカツキ事務所でのコワーキングなど、幅広い形で良い関係を築いています。

きちんと見て褒めてくれる安心感に、自信ができました

いつもきちんと見てくれている安心感があり、かけてくれる言葉に信頼感があります。ファンドレイジングの企画やプレゼンの発表後など、すぐ連絡をくれて、絶妙なタイミングで褒めてくれたなど。おかげで自信がついたと思います。永田さんのイメージは、一人で作業に集中したり、あちこち飛び回ったり、回し車のハムスターのよう(笑)。若い人たちに対して、NPOはプロフェッショナルな仕事だということを、一緒に伝えていきたいですね。



井上 広之さん
いのうえひろゆきさん
/認定NPO法人
ソルト・パヤタス
理事・事務局長

VOICE 受益者の声

会員とのコミュニケーションで関係性が向上

実は、前職で長崎のNPOで働いている時から、福岡の人はアカツキさんのサポートを受けられていいなと思っていました。今回クラウドファンディング実施にあたって、山村塾は活動歴が長いので、どこかで「会員さんはわかってきているはず」という甘えがありました。伴走支援の細かいフォローで、団体の活動の意義を改めて言葉にし、会員と一緒に活動していく発信ができました。



原 愛子さん
はらあいこさん/
NPO法人
山村塾 職員

一つ一つがNPO法人運営の指針になります

「NPO法人事務体制整備ノート」をダウンロードさせていただきました。普段活動している際に必要な項目が全て網羅されており感動いたしました。また一つ一つの項目が完結に整理されているのもありがたいです。広くこのノートを公開されていることは多くの団体、これから活動しようとしている方々の助けになるかと思います。作成に関わってくださった全ての皆さまに感謝いたします。



松見 幸太郎さん
まつみこうたろう
さん/NPO法人
キッズドア
事務局長

一緒に息を切らせながら走る、伴走型支援

コンサルティングというと、引っぱりながら、教えるという印象でしたが、アカツキさんは伴走型で、ふくおかファンドレイジング・セミの実践編も一緒に走ってくれました。「ちょっときつけど、こっちに行きませんか」と、一緒に息を切らせながら走る。そして倒れる時も一緒という感じですね(笑)。誠実さ、清潔感を感じていたため、ロゴの紺色はイメージにぴったりです。



牧園 祐也さん
まきそのゆうや
さん/NPO法人
Rainbow Soup
理事・職員

互いの声を受け止め合うコミュニケーション

アカツキさんには、社内コミュニケーション向上を目的に、1年ほど関わってもらっており、経営陣3人が細かいところまで話し合っ方針を決めるようになりました。また、自分は社員と話す時、言葉だけでなく表情にも気をつけるように。社員は言いにくいことも伝えてくれるような変化が起きています。アカツキさんの仕事は真剣で丁寧、筋が通った頑固さも、良いところだと思います。



金島 康二さん
かねしまこうじ
さん/株式会社
福港商会
代表取締役社長

人材育成事業 / 調査研究事業

丁寧な企画設計と打ち合わせ

NPOには横のつながり、行政には小さく具体的な変化を

福岡市との「ふくおかファンドレイジング・ゼミ」や、北九州市との「ファンドレイジング入門セミナー」は、いずれも企画段階から行政担当者との丁寧な打ち合わせを重ね、単なる資金調達ではなく仲間集めとしてのファンドレイジングを学ぶことのできる内容を設計しました。8団体・50名が参加し、分野を超えたNPO同士の横のつながりも生まれました。

福岡県内にある自治体職員に対する「NPOと行政の協働研修」では、NPOの制度や実態、協働のためのノウハウを、丸1日かけたワークショップを通じて40名×8回＝約320名に伝えることができました。

助成金・補助金を拠出又は運用する地方自治体や地域金融機関等の担当者を変え、NPOの成長や成果に繋がる助成金・補助金の出し方を検討する自主勉強会を5回開催しました。実際の補助金審査会に陪席し模擬審査を行うことで、評価項目について活発な議論を交わしました。また申請書の様式を再検討し赤入れを行うなどを通じて、実際に制度に見直しをかけたところも生まれています。

2015年度より継続する、西日本新聞都市圏版において県内NPOを紹介する連載記事「希望の種」の執筆を行い、全30団体の紹介+前後2記事の掲載の合計32回で終了となりました。

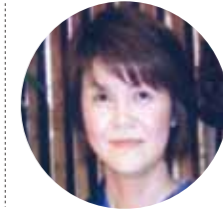
対話と交流の場づくりとして実施している「エンガワの夕げ」と「もくもくダイアログ」については、人員体制や収益性の課題の面から、開催頻度を控える判断を行ないました。



VOICE 支援者の声

人が、今を繋いで生きていくための支援

社会的不安・経済困窮など、様々な要因で医療現場と行政(社会資源)からこぼれ落ちる人がいます。それを他人事と見過ごさず、看護で云う「ケアリング」を担い、命を繋いでいるのだと思います。アカツキの皆さんはどなたも真摯で真面目。真の支援の在り方を模索し続ける姿勢に感動しています。伴走型支援をしている代表の永田氏を含め理事の方々ですが、ケアリングする方々にもケアは必要です。その一人として、これからも支援して行きます。



柳間 孝子さん
くしまたかこさん/
医療法人啓心会
啓心会病院 外来師長

つきつめと衝突の先に生まれたロゴマーク

一番苦労したのはロゴマークのデザインです。それまでフライヤーなどのツール類はいい意味でお任せしてもらえて大きな衝突も無かったのが一転、ロゴだけはなかなか納得してもらえず大変な難産になりました。こだわりの使いどころを知っていて、必要であれば衝突を恐れない姿勢、「この仕事でこの料金は安すぎる。上乗せさせてください。」という新鮮な要求もアカツキらしさかなと(笑)。



中里 明日香さん
なかざとあすかさん/
スカイハイ
イツオーケストラ
デザイナー

ゆるさと憧れが両立する仕事に期待

アカツキの特徴は代表のゆるさでしょうか。NPOにはカリスマ的で引っ張る代表が多いですが、永田さんは取って前に立たず、周りの人に歩幅を合わせていると感じます。今後は、多くの高校生や大学生に、「自分たちの困りごととは自分たちで解決できる」ということを知ってもらい、育てていく事業ができる面白いですね。報酬の面も含め、次世代の憧れになる仕事になることを期待します。



野崎 大雅さん
のざきひろまささん/
アプコグ
グループジャパン
マネージャー

VOICE 連携先の声

行政の新たなチャレンジにつながる伴走支援

福岡市はNPOと行政の共働を推進しており、永田さんには共働促進アドバイザーとして関わっていただいています。共働推進のための新たな提案をいただくことも多く、実現に向けて一つ一つ要素を洗い出し組み立てるといった地道な作業を、寄り添い共に創りあげてもらっています。アカツキの伴走型支援は、行政のチャレンジや他のNPOの活性化につながるものとして、今後ますます期待されています。



井上 雅美さん
いのうえまさみさん/
福岡市
市民公益活動
推進課

NPO経営の実態を知り、芯を持って意見を言う

アカツキさんとは「助成金の出し方勉強会」で一緒に取り組んで来ました。資金配分に留まらず、組織の成長を意識した制度設計にするという発想は、新鮮で刺激的でした。地域におけるNPOの経営の実態を知り、芯を持って意見を言えることはアカツキさんの強みだと思います。これからは一緒にNPO支援の現場に入って知識をつけ、より専門的な福祉金融機関に成長していきたいです。



武田 恵介さん
ただけいすけさん/
九州労働金庫
福祉金融推進室

ポリシーのある事業展開を期待

アカツキさんと一緒に仕事をしています。感じたのは、NPO法人の経営に関する知識が多いということ、私自身とても勉強になりました。また、仕事の姿勢は真面目だけど自由で頑固な一面もあり、ぶつかることもありましたが、すぐに切り替えて後に引きずらないので付き合いやすかったです。これからもポリシーのある事業展開を続けて、九州のNPOをつなぐような存在になってほしいです。



とある行政職員
Aさん(匿名)

西日本新聞「希望の種」連載を共にして

担当デスクとして、ずっと永田さんの書いた原稿を読んでいました。「NPOのためのNPO」という存在や、「NPOにおける理念の重要性」などは、目から鱗でした。NPOが未来に向かって変化を生み出すためには、支援者や行政とも手を結び、地域社会に根を張る、安定した組織経営が必要だと感じます。アカツキさんのような存在は全国的にもまだ少ないので、若い人を育てて送り出して欲しいと思います。



山本 敦文さん
やまもとあつぶんさん/
西日本新聞社
報道センター

♥ アカツキの仲間になってくださり、ありがとうございます ※氏名公開可の方のみ・順不同

【フェロー(正会員)】 宇都龍志さん 小島理絵さん 小淵亮兵さん 鈴木大空さん 多原真美さん 野崎大雅さん 池本柱子さん 富永沙和さん 古橋範朗さん 藤見里紗さん 大澤龍さん 大島隆さん 稲月ひかりさん 大庭勇さん 原口尚子さん 早田等さん 黒田美穂さん 仲野美穂さん

【サポーター会員】 青木絵美様 岡優子様 栗田将行様 平由以子様 中里 明日香様 松田美幸様 マクリマイケル様 八尋さおり様 吉武ゆかり様 原田君子様 影山知明様 松島弘哉様 村田那菜子様 藤原一尊様 山中祥子様 坂崎あゆみ様 増永弘子様 相浦圭太様 間間理様 清水隆哉様 知足文隆様 福島優様 本田正之様 宮田智史様 渡邊裕子様 牛嶋麻里子様 福岡佐知子様 雪松直子様 太田直子様 河合将生様 天川公次様 山内泰様 鹿野翔様 櫻井香那様 白神加奈子様 末本圭子様 谷口竜平様 金子雄一郎様 池本真一様 植村康子様 高橋あづさ様 立花祐平様 渡邊浩美様 加藤健太様 森田義也様 小川恵美子様 今村晃章様 福留裕一様 筒井さおり様 矢野裕樹様 梯愛依子様 草場勇一様 清水舞子様 宮下和佳様 久保みなみ様 大久保大助様 中尾利彦様 森耕一郎様 四宮淳平様 鳥居亜佑美様 大田弥生様 上村一隆様 伊藤次郎様 仲西浩一様 野田直樹様 田辺友也様 大神弘太郎様 田北雅裕様 後藤大輔様 加留部貴行様 佐藤貴美様 兵土美和子様 福井崇郎様 末本晴香様 上角梓様

特例認定

法改正により、名称が「仮認定」から「特例認定」になりました

NPO法改正により、2017年4月1日から名称が「特例認定NPO法人アカツキ」へ変更になりました。なお、サポーター会費や寄付でご支援くださった方への寄付金控除による税制優遇(最大50%還付)と、企業の寄付損金参入枠拡大については、これまでと同じく活用いただけます。

また、以前の寄付キャンペーンで認定NPOの要件(3,000円×100人・2事業年度)も満たしましたので、今年度中に認定NPOの申請を行う予定です。認定取得後は、相続寄付の非課税や、法人税の減免(みなし寄付)が活用できます。なお、認定・特例認定NPOの取得率は全国のNPO法人の約2%ほどです。

決算報告

活動計算書

(2016年4月1日～2017年3月31日) ※概要版

科目		金額(円)
経常収益	受取会費 正会員/サポーター会員	381,000
	受取寄付金	215,500
	事業収益	
	(1)コンサルティング事業収益	2,065,036
	(2)人材育成事業収益	4,166,550
	(3)調査研究事業収益	108,000
その他収益 受取利息/雑収益	5,598	
経常収益 計	6,941,684	
経常費用	事業費	
	人件費	2,752,869
	諸謝金	600,220
	会議費	31,320
	支払手数料	8,584
	旅費交通費	439,830
	消耗品費	366,939
	印刷製本費	831,773
	交際費	73,744
	租税公課	2,400
	賃借料	151,364
	通信運搬費	2,826
	研修費	103,407
	新聞図書費	162,240
	諸会費	56,600
	事業費 計	5,584,116
	管理費	1,203,162
	経常費用 計	6,787,278
	当期経常増減額	154,406
	法人税、住民税及び事業税	71,000
当期正味財産増減額	83,406	
前期繰越正味財産額	1,977,115	
次期繰越正味財産額	2,060,521	

人件費

上半期9月までは2名、下半期10月以降は1名分の給与でした。社会保険料などの法定福利費も含まれています。

諸謝金

「NPO法人事務体制整備ノート」制作のためのデザイナー・専門委員(士業等)・モニターに支払っています。

消耗品費

2017年度事務局職員のためのノートPCやケーブル等機器の買い替えと新規購入で一時的に増額しています。

印刷製本費

「NPO法人事務体制整備ノート」印刷・製本のため使用。冊子自体は委託元の福岡県に納品しています。

新聞図書費

NPO法人の法務・労務・会計・税務等の事務局実務、またコンサルティングや対話関連の本等を購入しています。

管理費

事務所家賃、水光熱費、アニュアルレポート制作費、税理士顧問料、役員合宿や総会開催費用等を含みます。

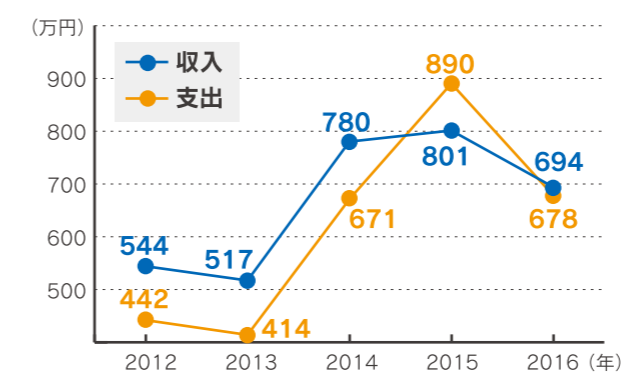
財務分析と方針

収支は黒字回復 より現場主義を強めます

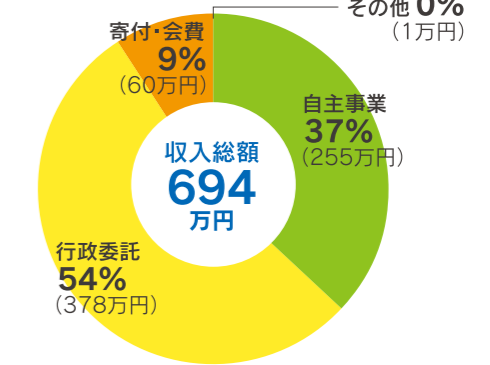
2016年度収入は約694万円(前年度比86%)、支出が約678万(前年度比76%)で、収支バランスはやや改善しました。2015年度からの繰越財産によりキャッシュは200万残っています。職員体制の問題で、自主事業開拓や支援依頼ができず収入が伸び悩みました。

結果として、従前からの経営課題である行政委託事業の財源比率が50%を超えてしまいましたが、2017年度は受託のための応募自体を減らし、その分の時間を直接的な顧客であるNPOや支援者とのコミュニケーションの時間に振り向けます。

過去5事業年度の収支推移



2016年度収入内訳



行動目標

経営課題

市場調査

顧客となるNPOや市民のニーズを把握するために、個別インタビューや合同ヒアリングの実施機会をこれまで以上に増やし、会員にも積極的に協力を依頼する。

商品開発

これまでの1回3時間×5回、6ヶ月のような「伴走支援」とは別に、少額で毎月訪問の顧問契約型コンサルティング「伴歩支援」の商品パッケージを開発する。

工程管理

相談やコンサルティングの個別案件が増えるため、その全体像・受注額・進捗・課題などが常に把握できるように資料にまとめ、事務局で議論しながらPDCAを回す。

品質向上

内部研修以外に、東京・関西・東北など他地域のNPOコンサルタントと、情報やフレームワーク、ケース共有、議論を通じた相互研鑽の機会を持つ。

新規事業検討中

過去5年間、NPO対象のコンサルティング推進の中で、2つの課題が現れてきました。1つ目は支援先団体に管理部門(事務局総務、ファンドレイジング、理事会など)に割く時間が足りないこと、2つ目は顧客となるようなNPO(経営意識がある、寄付やボランティアで市民参加の機会をつくる意思がある)自体の母数が少ないことです。

そこで、前者についてはコンサルティングとセットになった管理部門への助成金拠出、後者については一般市民対象の国内スタディツアーを打開策として仮説設定しましたが、どちらも、既に先進事例へのヒアリングを開始していますが、また会員の皆様にもご相談させて頂きたいと考えております。

貸借対照表

(2017年3月31日現在)

資産の部		負債の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
流動資産		流動負債	
(現金・預金)		未払金	160,000
現金	214,526	預り金	1,021
普通預金	1,702,816	未払法人税等	71,000
現金・預金 計	1,917,342	流動負債 計	232,021
(売上債権)		負債の部 合計	232,021
未収金	375,200	正味財産の部	
売上債権 計	375,200	正味財産	
流動資産 合計	2,292,542	前期繰越正味財産額	1,977,115
		当期正味財産増減額	83,406
		正味財産 計	2,060,521
		正味財産の部 合計	2,060,521
資産の部 合計	2,292,542	負債・正味財産の部 合計	2,292,542

活動計算書および貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、NPO法人アカツキの収支を正しく示していることを認めます。

監事 兵士 美和子 鋪田みどり